

2018 年 10 月 31 日

スペースデブリ除去の事業化を目指す アストロスケールへの追加出資について

株式会社 INCJ（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：勝又幹英、以下「INCJ」）は、スペースデブリ^{*1}除去技術の開発およびサービスを提供する AstroScale Pte. Ltd.（本社：シンガポール、創業者兼 CEO：岡田光信、以下「アストロスケール」）の第三者割当増資を引き受け、35 百万米ドルを上限とする追加出資を行う事を決定し、そのうち段階的な投資の初回として 25.5 百万米ドルの出資を行いました。また、既存投資家のほか、今回新たに SBI インベストメント株式会社運営ファンドや三菱地所株式会社等が出資を行いました。

^{*1} スペースデブリ（宇宙ゴミ）とは、運用が終了した人工衛星やロケット上段等、活動を行う事なく地球軌道上に放置された人工物体や、人工物体同士の衝突等により発生した破片を指します。

現在、地球を取り囲む宇宙空間には 1 センチ以上のスペースデブリが軌道内に約 75 万個存在し、急速に増加しています。スペースデブリが存在することにより、我々の暮らしに不可欠な人工衛星に衝突して破損させてしまうなど、宇宙空間を利用する際の脅威となっています。持続可能な宇宙利用のためにも、デブリ増加の抑制や除去の必要性が認識されており、欧州宇宙機関や米国等ではスペースデブリの低減に関するガイドラインが設けられるなど、国際的にも注目が高まっています。

アストロスケールは、より持続性のある宇宙開発のために、スペースデブリ除去の事業化を目指す宇宙ベンチャー企業です。同社は、2013 年に設立して以降、開発を加速させており、現在は将来新たに発生する故障衛星を除去するサービスと、既に宇宙空間に存在する大型スペースデブリを除去するサービスを事業の柱としています。2017 年には、英国における長期的な事業展開を目指して、同国に子会社を設立するなど、順調に事業を推進しており、さらに 2020 年前半には、世界初となるデブリ除去衛星実証機「ELSA-d（エルサディー）」の打ち上げを予定しています。今回の調達資金は、スペースデブリ除去サービスの本格展開に向けた、拠点新設・拡充や開発、体制構築に供される予定です。

INCJ は、2016 年 2 月に 30 百万米ドルを出資することを決議し、2016 年 3 月と 2017 年 6 月にそれぞれ 15 百万米ドルを投資実行しました。アストロスケールに対して、技術開発に必要な成長資金を提供するとともに、社外取締役の派遣等を通じ経営面でのサポートを行ってきました。INCJ は、アストロスケールの技術力や、国内外の政府、国際機関、民間企業を巻き込んだビジネス推進力を高く評価しており、今後更なる事業展開に必要な資金に対応して、追加出資を行うことを決定しました。INCJ は本投資を通じて、アストロスケールの技術開発、実証およびビジ

ネスモデルの構築を支援し、宇宙産業発展の大きなボトルネックとなりつつある、スペースデブリ問題の解決に寄与します。併せて、民間企業による宇宙産業の発展を後押しし、我が国の宇宙関連の研究開発の拡大にも貢献することを目指します。

Astroscale Pte. Ltd. (アストロスケール) について

設立 : 2013 年 5 月
事業内容 : スペースデブリ除去、軌道上サービス及びその他の宇宙事業
本社所在地 : シンガポール
日本 R&D 拠点 : 東京都墨田区
代表者 : 岡田 光信
URL : <http://astroscale.com/>

株式会社 INCJ について

株式会社 INCJ は、2018 年 9 月、既存の官民ファンドである株式会社産業革新機構から新設分割する形で発足しました。産業革新機構は、2009 年 7 月、産業や組織の壁を越えて、オープンイノベーションにより次世代の国富を担う産業を育成・創出することを目的に設立されましたが、根拠法である産業競争力強化法の改正法の施行に伴い、同機構は株式会社産業革新投資機構に商号変更し、新たな活動を開始しました。株式会社 INCJ は、産業革新機構の事業を引き継ぐ形で、既投資先の Value up 活動や追加投資、マイルストーン投資、EXIT に向けた活動を主要業務として、2025 年 3 月末まで投資活動を行っていきます。

URL : <http://www.incj.co.jp/>

<本発表資料のお問い合わせ先>

株式会社産業革新投資機構 企画調整 Gr. 広報 入江、坂井
東京都千代田区丸の内 1-4-1 丸の内永楽ビルディング 21 階
電 話 : 03-5218-7202

【別紙】

追加支援決定案件の概要

1. 対象事業者

Astroscale Pte. Ltd.

- ・ 設立 : 2013 年 5 月
- ・ 所在地 : シンガポール
- ・ 日本 R&D 拠点 : 東京都墨田区
- ・ 代表者 : 岡田 光信
- ・ 事業内容 : スペースデブリ除去、軌道上サービス及びその他の宇宙事業

2. 支援決定内容

- ・ 支援決定金額 : 35 百万米ドル（上限）
- ・ 実投資額 : 25.5 百万米ドル（その後、前提条件の充足に伴い上記範囲内での追加出資を行う）
- ・ 共同投資家 : SBI インベストメント株式会社運営ファンド、三菱地所株式会社など
- ・ 支援決定公表日 : 2018 年 10 月 31 日
- ・ 株式保有割合 : 非公表
- ・ これまでの支援決定内容 :
 - 支援決定公表日 : 2016 年 3 月 1 日
 - プレスリリース : <https://www.incj.co.jp/news/assets/1456792580.01.pdf>
- ・ 投資ストラクチャー図 : 別紙

3. 投資意義

＜社会ニーズへの対応＞

- ・ 宇宙産業発展の大きなボトルネックとなりつつある、国際的なスペースデブリ問題の解決への貢献
- ・ スペースデブリ問題の解決を通じて、日本における民間宇宙産業拡大を後押しし、競争力のある日本の小型衛星製造技術、デブリ除去に関連する要素技術の防衛や、今後の宇宙関連研究開発の拡大に結実

＜成長性＞

- ・ 日本の宇宙・衛星技術をベースに、スペースデブリ除去技術の開発やビジネスモデルを確立することで、宇宙関連産業の価値創造につながる
- ・ 国際的なスペースデブリ問題を解決する有力技術とビジネスモデルを提供することで、宇宙関連産業の成長に寄与

＜革新性＞

- ・ 日本人経営者による、日本の宇宙・衛星技術を結集した宇宙ベンチャー
- ・ スペースデブリ除去に必要な要素技術（デブリ捕獲機構やセンサー、制御技術等）を日本のアカ

デミアや宇宙産業関連企業と連携して開発し、革新的なスペースデブリ除去技術開発とビジネスモデル確立を行う

＜大臣意見＞

主務大臣（経済産業大臣）意見 （2018年9月19日付）

本事業は、我が国が有する超小型衛星技術等を活用した宇宙デブリ除去ビジネスの実現に繋がるものであり、宇宙産業の持続的な発展に大きく貢献するとともに、我が国の国際競争力強化にも資することから、意義のあるものと考えられる。

産業革新機構は、日本国内で着実に研究開発活動が行われ、我が国が宇宙産業の裾野拡大に資するよう、適切な支援の実施に努められたい。

また、将来、保有する株式の譲渡等を検討する場合には、経済産業省と緊密に連携しつつ、我が国宇宙産業の発展に資するよう、処分方法を検討されたい。

以上

投資対象：Astroscale Pte. Ltd.

事業内容：スペースデブリ※の除去技術の開発およびサービスの提供

支援決定金額：30百万USD(上限)／35百万USD(上限) ※実投資額：25.5百万USD(2018年10月)

支援決定公表日：2016年3月1日／2018年10月31日

※スペースデブリ(宇宙ゴミ)：運用が終了した人工衛星やロケット上段等、活動を行う事なく地球軌道上に放置された人工物体や、人工物体同士の衝突等により発生した破片



- 新たなデブリ除去技術の開発、実証およびビジネスモデルの構築を支援し、宇宙産業発展の大きなボトルネックとなりつつある、国際的なスペースデブリ問題の解決に寄与
- 宇宙・衛星技術等の展開や宇宙関連産業の価値創造につながる貢献を目指す